

## 第1回交通ワンチーム部会 議事録

日 時： 令和4年8月26日（金）15：00～16：15

場 所： 富山県民会館3階 302号室

出席者： 委員名簿のとおり

### 1 開会

### 2 挨拶

#### ●田中部会長

皆さんこんにちは。本日1回目の交通ワンチーム部会を開催しましたところ、皆様には大変お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

ご案内の通り新型コロナの影響など、地域公共交通を取り巻く環境、依然として厳しい状況ではありますが、将来を見据えまして、地域公共交通の維持確保、利便性の向上を図っていくことは重要な課題だと思っております。

こうした課題に対応するため、県では今年度、地域交通戦略会議を立ち上げまして、持続可能な地域公共交通の確保に向けた新しい計画を策定することといたしました。

本日の部会では、この戦略の策定に向けて立ち上げました地域交通戦略会議でありますとか、また今日も交通ワンチーム部会ということで一つの部会なんですけど、これまで3部会それぞれ開催しておりますので、その開催状況についてもご報告させていただくとともに、市町村の皆様としっかり連携を図っていくことが大事だと、このように思っておりますので、各市町村で取り組まれております地域公共交通計画の策定についても情報共有いただくこととしております。

本日は、交通事業者の方、また国土交通省の方、県の警察本部の方もご参加いただいているところであります。幅広く情報交換意見交換をさせていただきたいと考えておりますので、本日はよろしく願いいたします。

### 3 議事

#### (1) 富山県地域交通戦略の策定に向けた検討状況について

#### ●田中部会長

新聞でも報道されておりますけども、6月2日に開催いたしました第1回の地域交通戦略会議では、ウェルビーイングの向上を目指す計画にすること、また計画では、県の地域交通の将来ビジョンとなる基本的な方針・考え方を整理し、その実現に向けた具体的な施策・事業を設定していくことなどが了承されております。

またその後、7月1日には鉄軌道サービス部会、8月3日には地域モビリティ部会、

同月 19 日にはサービス連携高度化部会がそれぞれ開催されております。計画の基本的な方針・考え方の整理に向けまして、ウェルビーイングの向上をもたらす交通サービスについて、議論・整理が行われております。

本日の部会ではお手元に次第ありますけど、議事のところに記載のあります通り、県の地域交通戦略の策定に向けた検討状況、また市町村における地域公共交通計画の策定状況等について、幅広く情報共有・意見交換させていただきたいと考えております。

それでは初めに議題 1 の県地域交通戦略の策定に向けた検討状況について、事務局から説明お願いいたします。

## ●事務局

(資料 1、資料 2、資料 3 及び資料 4 に沿って説明)

## ●田中部会長

全体会議からは部会が 3 つありましたんで、ちょっと内容がたくさんあったと思うんですけど、順次議論を進めているということで、一括してご説明をさせていただきました。

今ほどご説明させていただいた内容について、ご質問、ご意見がおありの方いらっしゃいましたら、どなたからでもお願いします。オンラインの方も挙手してもらえれば、指名させていただきますのでお願いします。

## ●上市町

上市町企画課の碓井です。

当町におきましては、上市町地域公共交通網形成計画というのをすでに策定しております。町長は 2 期目なんですけれども、町営バスの再編というのは、うちの町長の 1 期目の公約でもありましたので、再編作業を 1 期目から行っておりまして、令和元年 10 月から 1 年間実証運行を行いまして、令和 2 年の 10 月から町営バスの本格運行を開始しております。

上市町内の公共交通機関なんですけれども、富山地方鉄道さんと、町営バス、タクシーがあるんですが、町民はそれぞれの公共交通機関で町内外への移動手段としているわけでございます。今回その計画を策定するにあたりまして、特にまちづくりと連携する形で地域公共交通網の形成を図っていく必要があるというふうに考えて計画を策定いたしました。

基本方針としまして効率的ということが 1 つ、あと 2 番目に利便性の向上ということ、それと 3 つ目にまちづくりと連携した公共交通の利用機会の創出ということを 3 つの方針と掲げまして、今年度まで各種事業を進めてきました。

令和 3 年度におきましては、富山地方鉄道上市駅の開設 90 周年ということで記念事業実施に際し、クラウドファンディングに挑戦いたしまして、580 万円の支援金を

いただいたところでございます。

それによりまして、駅構内に駅ピアノを配置したり、町内産木材のベンチの設置ですとか、あと富山地方鉄道さんと連携しまして町内小学生の夢を書いた寄せ書きラッピング列車の運行などにつきましても実施いたしました。

そして今年度ですが、上市スマートインターチェンジが供用開始しておりまして、4月29日から地鉄さんの高速バスの新潟便が就航いたしました。それに合わせて上市スマートインターチェンジのバス停で乗り降りした利用者に対して、運賃の半額助成ということで今現在実施しております。

この事業が大変好評でして、町民のみならず町外からの利用者、県内の方ももちろん、県外の方も利用されてまして、最近ですと山形県在住の方や長崎県など九州の方からも利用され、全国から公共交通ファンという方がいらっしゃって、運賃半額助成ということで利用されております。

特に今年度は、町出身の細田守監督の映画「おおかみこどもの雨と雪」の公開10周年ということで、それも地域公共交通と絡めてやろうということで行っておりまして、映画のモデルとなった古民家が町内にあるんですが、その古民家が山間部の方にあるものですから、町営バス路線で網羅し切れなかったルートとして期間・曜日限定で運行したり、富山地方鉄道さんともタイアップしまして、往復乗車券と町営バスの1日乗車券セットを作成したり、町への来訪者等への公共交通の利用機会を創出し、地域経済の活性化を目指そうということで今現在やっております。

町の地域公共交通計画について雑駁に今説明いたしましたが、今後、上市町にとりまして、富山地方鉄道は富山市と繋がっている唯一の公共交通機関でございますので、その運行体制は非常にしっかりと堅持してもらいたいと思っております。部会ですとかいろいろな会議で、これからも地鉄さんへの支援をどんなふうにも、単なる赤字補填という形ではいけないと思うんですけれども、いろいろな角度から、その支援の仕方や仕組みなどを、議論していければいいのかなと思っております。

### ●田中部会長

ありがとうございます。今ほどすでに計画を策定されておられます上市町さんから、計画策定の話ですとか計画に基づく取り組みなどをご説明をいただきました。

この会合は幅広く意見交換をして、事業者さんなりまた市町村の方がそれぞれ、いろんな面で、皆さんのまた計画にも役立てていただき、また県全体の計画の中の議論にもそういうものを盛り込んでいく、そういう場でありますので、他の市町村の皆様方にも大変参考になったと思います。ありがとうございます。

### ●新庄委員

富山地方鉄道でございます。公共交通事業の運営には、日頃より大変お世話になっております。この場をお借りして関係の皆様へ感謝申し上げます。いつもありがとうございます。

新しい交通戦略ということでこれまで議論させていただいておりますが、今年6月開催の第1回全体会議で示されました、事業者の採算性より利便性を重視するとの方向性について伺った当初は、公共交通を事業として行っている私たち事業者にとっては、当然採算性というものは重視すべきで、今もコロナのダメージを受けております他県の交通事業者が今も利用実態にみあった効率化であったり事業性を高める施策をどんどん進めている中でのその方向性については、その辺はどう対処されるのか、正直不安もございました。

が、これまで部会の中でいろいろと協議を行いまして、公共交通に求める役割が、この計画においてはこれまでと全く異なるということ。今は移動の足として、そして、利用されているか或いは利用されていないかという、そういった事業の視点でサービス提供されているのに対して、計画の中では、単に移動の足でのみの狭い視点ではなく、まちづくりであったり、環境問題であったり、或いは高齢者の健康維持など、人そして社会全体のサービスとして必要だということ、地域の関係者が、その維持と充実に向けて、ここに取り組むことで、私ども事業者の課題もその中で一緒になって考えられると、大変心強く思っているところでございます。

ですので弊社としては、この計画のもと、これまで運輸事業の一環として行ってきた公共交通については、事業の枠を超えて、県全体で便利で良質な公共のサービスを提供するために、他の交通事業者さんであったり、地域の皆様とも連携して、本気になって取り組みたいとの思いを強く持っております。

ただ一方で、第1回の鉄軌道サービス部会において宇都宮部会長から、このことに取り組む民間事業者のこれまで同様の運営努力には限界もあり、官民の役割分担、責任分担を考えていく課題があるとのことのご発言もございましたが、やはり目指すところが事業の生産性を高めるものではなく、地域交通の充実によって社会全体の質の向上を目指すこの計画には、どうしても公共の主体的かつ積極的な関与が必要ですし、私ども民間事業者の安定的な取り組みも、それあって成り立つものと考えております。

ぜひそのことに自治体の皆様のご理解をいただき、今後計画の実現に向けて、一緒に議論して参りたいというふうに思っております。

#### ●田中部会長

新庄委員さんには、全体会議、各部会も幾つもの部会ご出席いただいているので、それを踏まえてのご発言だったと思います。

#### ●清水委員

加越能バスの清水でございます。日頃より、当社の事業にご協力、ご支援そしてご理解をいただきましてありがとうございます。私どもの弊社の考えを少し述べさせていただきます。

交通環境における事情、或いは状況というのは皆さんご存知の通りだというふうに思っておりますけれども、こうした環境から抜け出すには、今、県が推進するウェル

ビーイングの向上に繋がり、あわせて、利用者のニーズにこたえるために、とにかく可能な限り公共交通の利便性を高めることも必要ですし、加えて、長い年月をかけながら、自家用車への依存を少しずつ下げて、公共交通を利用していただける生活習慣を促していくことも重要だと認識しているところです。

また、バックキャスト型で交通計画を策定し、周りのすべての方々を巻き込みながら、目標から逆算する形の施策づくりについても、より確実に、計画を実施できる手法として理解し、受けとめているところです。

一方、我々公共交通事業者には、今現在も非常に重要であり、コロナ感染症が収束していない昨今の窮地を回避できないことには、元気よく、未来や夢そして将来像について語ることは、なかなか厳しい状況にあるのかなというふうに感じております。

今後につきましては、県民や利用者にとって利便性の高い公共交通サービスを提供するために、地域や利用者の方々など、ステークホルダーに相当する方々すべてに公共交通に対して関心を持っていただき、適切なサービスレベルを維持していくために公共交通を育てる、そして、その公共交通を支えるには、行政の関わりが絶対不可欠だということを理解を得ていくには、利用者、ステークホルダー、公共交通事業者にとって、この厳しい状況から脱する絶好の機会としてとらえて、また期待もしているところです。

そして、ウェルビーイングの向上に繋がり、生活様式の変化やデジタル化に耐えうる新たな公共交通のあり方と、目指すべきサービス水準を確立していきたいというふうに考えております。以上です。

## ●田中部会長

事務局からも説明ありましたが、これまでの地域交通戦略会議の全体会議、部会通した、いろいろな議論を踏まえての、事業者さんサイドの発言だったと思います。ありがとうございます。

### (2) 市町村における地域公共交通計画の策定状況等について

## ●田中部会長

それでは、議題2の市町村における地域公共交通計画の策定状況等について移りたいと思います。本日は、現在地域公共交通計画の策定に着手されておられます富山市、高岡市、氷見市、朝日町さんということで4市町の皆さんですけど、ご出席をいただいておりますので、現在の検討状況等について、事業者さんなり他の市町村の方も大変参考になるとと思いますので、紹介いただきたいと思います。

なお、市町村の今現在計画策定を実施されてると思うんですけど、今後いろんな自治体の方も参考になりますんで、もし何か今こうやっておられてポイント等あればですね、またそういう面もお話しいただければと思います。

## ●富山市

富山市の高田です。

富山市では、まちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成を図るため、平成28年9月に富山市地域公共交通網形成計画を策定し、1つに公共交通軸の活性化によるコンパクトなまちづくり、2つに地域特性に応じた多様な生活交通の確保、3つに公共交通の利用促進の3つの基本方針のもと、交通事業者等と連携しLRTのネットワークの形成を初め、JR高山本線、地鉄不二越・上滝線の増便運行、またパークアンドライド駐車場の整備、生活バス路線への支援による運行の維持、モビリティマネジメントなど、様々な公共交通の活性化策に取り組んで参りました。

しかしながら、人口減少の本格化等により、さらには、新型コロナウイルス感染症拡大における新しい生活様式の広がりや、DX等の進展により、人々の暮らしや働き方が大きく変化し、公共交通の利用者はいまだコロナ禍前には戻っていないものと認識しております。

このような社会情勢のもと、既存の公共交通サービスを最大限に活用することに加え、地域の多様な輸送資源の活用、さらにはMaaSやAI、自動運転技術等の新たなモビリティサービスの取り組みも検討しながら、公共交通が目指すべき役割を明確化し、本市が目指すコンパクトなまちづくりをさらに深化させるため、新たな地域公共交通計画の策定に今年度着手いたしました。

策定は来年度までの2ヵ年となります。今年度につきましては、課題の整理を中心に行うこととしておりまして、公共交通を取り巻く現状の整理を行うとともに、市民の交通に関する移動実態や、公共交通に対するニーズを把握するため、市民アンケートを実施しまして公共交通に対する改善要望の把握、整理などを行っているところであります。

来年度につきましては、計画の基本方針や、方針を達成するための施策、数値目標を取りまとめ、計画を策定して参りたいと考えております。

なお今年度につきましては、コミュニティバスの運行状況や利用状況の検証を行い、将来を見据えたコミュニティバスのあり方を検討し、それぞれの地域特性に合ったAIを活用したデマンド交通や、グリーンスローモビリティ、さらには自動運転など、新たな移動手段の導入可能性の調査を行っております。

また、JR高山本線においては、昨年度高山本線ブラッシュアップ会議を立ち上げ、地域鉄道が直面する課題解決に繋がることを目標に、実現方法や、その可能性も含めて議論を進めており、今年度中に活性化計画を取りまとめる予定としております。

さらには路面電車南北接続の効果検証なども行っております。

それらの調査や会議の内容も計画に反映させるとともに、現在富山県さんが策定中の計画と整合を図り、さらには国においても、鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会など、様々な検討会がありますが、そういった国の動向も注視しながら、本市の計画を策定して参りたいと考えております。

以上となります。

## ●田中部会長

ありがとうございました。グリーンスローモビリティとか、新しいモビリティのご説明もありました。市さんへのご質問おあり方はですね、4市町ご説明終わられた後で、お願いしたいと思います。

## ●高岡市

高岡市の表野でございます。いつもお世話になっております。

高岡市におきましては、現在城端・氷見線におきまして、資料2の方でも触れていただいておりますように、沿線4市並びにJR西日本様の協力も得まして、令和4年度から8年度の5ヵ年計画の方を策定済みということでございます。

高岡市単体におきましては、現在、高岡市総合交通戦略というものが令和5年度まで計画期間となっておりますが、今それを引き継ぐ形でもありますけれども、令和5年度内の高岡市地域公共交通計画、この策定に向けまして、この3月に協議会を立ち上げまして、現在は、それぞれ交通機関の利用実態でありますとか、市民の移動ニーズ、こうしたものを把握するための調査業務に取りかかっているところでございます。

調査結果は年度内に開催する協議会の方で共有をしつつ、計画策定に向けた議論を今後活発化させていきたいと考えております。

また、これからのまちづくりに必要な交通体系の基本的な考え方といたしまして、高岡型コミュニティ交通というものの実現を目指しております。高岡市では、高岡駅中心市街地へ集約するような形で交通網が形成されておりますが、この中心市街地と周辺市街地とをつなぐ鉄軌道や路線バスといった基幹交通、骨格的な公共交通の維持に努めながら、これらと地域とを市民協働型の地域交通システムによって繋ぎまして、市域全体の移動利便性を高めていきたいと考えております。

この交通ネットワークの形を高岡型コミュニティ交通というふうに位置付けておりまして、これを推進することによりまして市民が過度に自家用車に依存することなく、持続可能な地域社会の実現を目指しているものでございます。

これは市の総合計画や都市計画マスタープランに掲げております、コンパクトアンドネットワーク、こうした概念に沿ったものでございまして、こちらを計画の中心に据えた上で計画策定を進めていきたいと考えております。

また、市民協働型の取り組みにつきましては、現在、1地区で運行中、2つの地区で実証実験、あと1つの地区で実証に向けた準備を進めているところであります。このうち、実証のうち1つであります、守山という地区におきまして本格運行がこの9月から始まることになっております。また中田地区というところにおいては、朝日町さんで運行しておられますノッカル、この仕組みを用いまして10月ないし11月には実証運行に進めていく予定となっております。

それ以外の地域におきましても、例えば自治会役員の説明会でありますとか、勉強会、ニーズ調査のためのアンケート調査など、自身の地区における導入の可否や、導

入した場合の試算などにそれぞれ取り組んでいただいているところでございます。

ここ2、3年コロナ禍によりまして、これまで以上に公共交通の利用者というものが大きく落ち込んでいる状況にございます。ちょっと耳にしたところによりまして、例えば事業者さんの中には、公共交通から自家用車への転換というようなものも促しておられるところもあると聞いておりますし、また、親御さんの送迎に離れてしまっているのかなと思うんですが、中・高生の方などが、例えばバスの乗り方がわからずに、また幾つも路線があることからどこへ連れて行かないのかわからないということで、不安を覚えているというふうな話も耳にしております。

こうした経験がないゆえにというか、知識・情報がないがゆえに起きている事象というものもあると思いますので、モビリティマネジメントではないですけども、カーボンニュートラルやSDGsといった視点とともに、啓発的な部分も大事にしていきたいと考えているところでございます。

高岡市からは以上でございます。

### ●田中部会長

今ほど、実証運行のお話ですとか、現場の声といいますか、ニーズの話もいただきました。ありがとうございます。

### ●氷見市

氷見市地域振興課栗屋でございます。いつもお世話になっております。失礼して着座で説明させていただきます。

氷見市では、初めてとなる地域公共交通計画について、国の方、県の方からの補助金やアドバイスなどご支援をいただきながら策定に向けて、今年度着手したところでございます。現段階での検討状況でございますが、計画策定業者について、6月にプロポーザルを実施いたしまして、7月に契約しております。

この後は、公共交通等の現状の整理分析ですとか、地域住民、公共交通利用者のニーズ等の把握、課題整理、方針及び将来像、施策及び事業、定量的な目標・指標及び進捗管理の検討などにつきまして、協議会を開催しながら、実施していく予定でございます。

今回の協議会には、特徴がございまして、商工関係者と観光関係者を新たに加えております。また、公共交通空白地の有償運送の協議も本市は実施していることから、運営協議会の機能も持たせているということが、特徴だと考えております。

続きまして画面とかも見ていただければ、事前の資料をご覧ください。この中でまず本市の地域公共交通の現状を申し上げますと、まず、地域間幹線系統がございまして、これは今あります資料の上の資料の中の真ん中の下の方から書いてございますが、伏木経由氷見線、高岡ふしき病院経由氷見線、あとは脇線、守山経由氷見線、新高岡守山経由氷見線というのが、これが5路線でございます。

あと、地域内フィーダー系統でございまして、上のフィーダー系統というところに、

4つございまして、氷見番屋街経由の氷見市民病院、あと氷見番屋街、市街地循環左回り、市街地循環右回りの4路線がございます。

あと氷見市の特徴としてNPO法人のバスの運営がございまして、上の方からですね、灘浦線、磯辺線、碁石線、熊無線、速川線、久目線の6路線でございます。

その他、とやまぶりにバス、わくライナーなどが運行しているところでございます。

こういう状況を踏まえまして、今後、課題と考えていることが3つございます。資料に記載してございます赤の白抜きのところでございます。

課題の①-1、課題の②、課題③でございます。

詳細を説明させていただきますと、1つ目の①のことにつきましては、交通空白地有償運送、地域運営の存続及び代替策でございます。氷見市の山間の交通を支えてきました地域が母体となりましたNPO法人が運営いたします、通称NPOバスです、高齢化と人口減少によりまして、存続策・代替策の検討が必要となっております。また、今後必要となる公共交通の確保手法について、現在のNPOバス路線の検討結果を踏まえた整理が必要となっているところでございます。

2つ目は、大きな集客施設の開館等々とフィーダー系統との見直しでございます。これは、今年10月8日にオープンいたします氷見市芸術文化館そして氷見日海浜植物園という2つの集客施設の開館がございまして、フィーダー系統の見直し等により公共交通網の全体の活性化を検討する必要があると考えております。現在氷見市の海浜植物園には公共交通がございません、氷見市の芸術文化会館にはフィーダー系の土曜日の午後と日曜日の運行がない状態でございます。これを検討していきたいというふうに考えております。

3つ目でございます。JR氷見線の存続可能な新しい交通形態の検討と整合性を図るということでございまして、JR氷見線につきましては、現在LRT化の持続可能な新しい交通形態の検討中でございます。また氷見市の海浜植物園周辺は、新駅の候補地域に含まれてることもございまして、交通網、まちづくりとの整合性を検討する必要があると考えているところでございます。

以上のようなことを課題にしながら、今後進めて参りたいと。考えております。説明は以上でございます。

## ●田中部会長

ありがとうございました。計画検討に当たりまして商工、観光、こういうサイドの方も入っていただいてご検討されて議論されている点でありますとか、まちづくりとの連携みたいなお話もいただきました。ありがとうございます。

## ●朝日町

朝日の加藤です。日頃からお世話になっております。よろしく申し上げます。

資料6番でございます。資料6のページ1でございますが、朝日町ではこれまで地

域公共交通計画はございませんでした。これまで町のコミュニティバスでありますあさひまちバスのダイヤ改正だったり、或いは自家用有償旅客運送でありますノッカルあさひまちの運行につきまして、モビリティごとの利便性の確保や、運航方法の改善について、朝日町公共交通会議におきまして個々に協議して参りました。

しかしながら人口減少が進む中、個々のモビリティの強化では移動ニーズに対応できず、交通網衰退に伴う過疎化の進展が危惧されたことから、将来にわたって持続可能な公共交通網を実現するべく、令和4年度中に地域公共交通計画を策定することとしております。

この策定にあたりましては、既存の交通だけではなくて、住民のマイカー移動だったり、スクールバスなど、使途限定型の移動も潜在資源としてとらえまして、あらゆる交通モードを移動総量としてとらえ、総動員した。全体最適の視点を重視していきたいと考えております。

下の段でございます。その円滑な協議運営を図るべく、活性化再生法に基づく法定協議会を設置し、先般、第1回目の会議を開催しました。協議会の構成員はご覧の通りでございます。なお朝日町地域公共交通活性化協議会を親会議としまして、既存交通の再編、新モビリティサービスの検討など、協議事項ごとに個別にワーキンググループを設け、議論を進めてきております。

また、住民のマイカー移動データ取得を目的としました交通安全イベントをこの9月に開催することにしておりますし、住民約3,000人を対象としました意向調査、町民アンケートなどを行って実態を把握していきたいというふうに考えております。

裏面をご覧ください。これらの調査実施前にはですね、町の現状分析と将来予測から仮説を立て、目指すべき姿を明確化するようにしております。その到達過程をバックキャスト的に検討しまして、計画に落とし込んでいく想定でございます。

調査結果につきましては、仮説の解像度を上げる材料としてとらえていきます。具体的には、現状では概ね良くてもこのまま人口減少が進むと、課題の仮説として、赤字が拡大するのではないか、公共交通がなくなっていくのではないかとということ仮定しまして、そうならないための計画づくりを行うこととしております。

最後に下の段でございます。今後の計画策定の中で、朝日町の交通計画では、一人一人の公共交通利用回数をふやすことで、移動総量をふやし、移動活性化につなげることを目指しております。この実現に向けまして、公共交通の利便性を上げる、公共交通の心理的ハードルを下げる。公共交通の支払い金額を上げるという、この3つの視点で、議論を深めていくこととしております。

これらのテーマで策定に向けた協議を進めていくこととしておりますが、まだまだ煮詰まってない状態でございます。今後、他の市町村なりの先進事例を参考にしながら行うこととしております。

雑駁ですけども朝日町からは以上でございます。

## ●田中部会長

ありがとうございました。最後の説明、スクリーンそこに映ってますけど、具体的な議論のお話もされまして、公共交通利用回数をふやし移動総量をふやすと。そういうために公共交通の利便性を上げるとか、公共交通への心理的ハードルを下げる、公共交通の支払い金額を上げるなど、具体的な議論を示しながら進められるということ、また参考になるんじゃないかと思います。ありがとうございました。

以上で4市町のご説明は終わったんですけど、せっかくの機会なので、他の市町村の方でも構いませんし、事業者の方でも構いませんので、何か今、ご説明のあった内容についてご質問等あれば、どなたでも結構です。お願いいたします。

### ●南砺市

富山市さんにお聞きしたいのですが、先ほどのグリスロのことですけれども、実証運行されているのか、されるのかわかならないのですが、雨が降ったりすると、大変なかなというのと、富山市さんでも、雪が降るとどのぐらい積もるかわからないのですが、雪降った場合に、グリスロが順調に動くのかなということが、実は自分たちもそのことを調べたことがあるのですが、気になっておりまして、そういったことについての対応は、冬場とか雨降った時の対応は、どのように考えておられるかお聞きしたいと思います。

### ●富山市

今現在ですね社会実験を準備してまして、また10月から新たにする予定になってるんですけど、今までやってきた中では、雨の降った日に関しましては、利用率がちょっと落ちてるといような状況になってます。

雪の日の状況につきましては、まだ実証したことがなくてですね、今年度初めて実証することになってます。しかしながら、秋田市さんとかですね、永平寺のところでもグリスロをやってるんですけど、そちらについては、雪の日でもやってるということで、富山市でもある程度実証できるんじゃないかと今考えております。

### ●南砺市

雪が降っても走ることができるということですよ。

### ●富山市

できると聞いてます。実際に視察行って見てきたんですけど、できていました。

### ●田中部会長

ありがとうございます。その他、ご質問等ありましたら、どなたでも結構です。

それでは今の議題2も含めまして、先ほどの議題1の内容もあわせて、ご意見、せっかくの機会なので、お話がある委員さんおられましたら、どなたでも結構ですのでお願いいたします。

## ●日吉委員

あいの風とやま鉄道です。

全般的な話になってしまうのですが、全国的には国の方の検討会もそうなのですが、今まで税金を道路事業に入れて道路整備を進めてきたといったようなことがあって、その結果として、残念ながら鉄道事業が衰退してきたということが、指摘されております。

今までは鉄道はあって当然だとか、或いは事業者に任せておけばいいというような発想があったのかもしれませんが、今の段階になってくると、手遅れにならないうちにこういう発想は見直すべきであろうというのが国の方もそういうような方向になりつつあるのではないかと思っております。

そういうことを踏まえると、今回の県の交通戦略の中の考え方としては、こういう利便性を高めていくというようなかたちの考えは、この方向性としては、私は正しいと思っております。

それに合わせてやはり市町村の皆さんもこの辺についてはやはりご理解を賜っていただきたいなと思うわけです。

それともう一つは国なのですけれど、国の方もしっかりと、そういう考え方によっていくのであるならば、今まで鉄道事業への国の補助金、補助制度というのは、あまり実は大した金額はないというような状態でありまして、ここら辺も鉄道への支援を国の方も充実を検討していただきたいなと思います。

例えば、弊社の例で言えば、車両整備を行おうとすると、基本的には古い車両を更新するというのが前提になっており、安全性の確保のための補助制度であるという考えだと思うのですが、ただそういうことを行っていると、増発とかができないことになってしまう。

そういうようなこともあって、例えばさらに利便性を高めていくということがなかなか難しくなってしまうので、国の方におかれても、こういったような、今言った車両整備といったようなことについても、補助制度を充実していく方向で検討いただきたいなと思いますし、それはまた、私どももそうですが、県とも一緒に国の方に要望していきたいなと思います。

## ●田中部会長

今ほど事業者のお立場で、具体的なお話をいただきました。ありがとうございます。

他にご意見、ご質問等ございましたら、どなたでも結構です。いかがでしょうか。

大体事業者の方とか市町村の自治体の方からもご発言いただいたんですけど、今ちょっと国の話も出ましたし、今日は北陸信越運輸局の富山運輸支局の方もご出席いただいておりますので、本日全般事業者の話とか自治体の話もお聞きなった上で、感想ご意見あればぜひお願いいたします。

## ●蝶名林委員

お世話になっております。富山運輸支局の蝶名林と申します。

まず今ほど、鉄道関係の補助、国としての補助というようなお話が出たところでございまして、正直私ども、富山の支局は鉄道の部分についてはちょっと携わっていない部分あるんですけれども、確におっしゃられる通り、鉄道については国の補助っていうのはちょっと薄目っていうところがあるのは実情でございます。その辺につきましては今回このお話をいただいたのは、上局の方に伝えていきたいとは思っております。

あと鉄軌道サービス部会ですとかあと地域モビリティ部会、サービス連携高度化部会、あと、各市町村さんのお話をお聞かせいただいて確かに、おっしゃる通りの部分が非常に多いと思います。

特に最後の朝日町さんの方でおっしゃられていた、今後の議論の事項というところで、利便性を上げて、ハードルを下げて、支払い金額を上げる。利便性上げれば、必ず、それだけのコストがかかってしまうので、ご利用させていただく市民の方が町民の方についても、その利便性が上がるのであれば、正直、今よりもお金を出してもいいよ、乗るよと。言われる方も必ずおられると思います。

逆に富山のお話じゃなくて私どもの管内の市町村さんのお話を聞かせていただくと、何で乗ってくれないんだろうと。一生懸命やっけていて、お住まいの住民の方々の意見を聞いてるんだけど何でのってこないんだろうっていうふうなお話になってくると、すごく言い方悪いんですけれども、声の大きな人のところを走らせる。おらが村のおらがところにバスを通してくれと、いうお話が来ると。実際走らせると、その大きな声を出した方乗っていただけない、というお話が多々聞こえてくるんです。

ちょっと荒療治かもしれませんが、自治体の皆様でいろいろ考えておられて、わかりましたじゃ通しますと、ただ、黒字にさせていただきたいとまでは言わないんだけど、1年間で平均乗車人員何人以上であれば来年以降もやりましょうと。そうでなければやめますとではその地元でお考えくださいと。

いうふうにやっておられる自治体さんもおられますし、あと、氷見市さんの事例を申し上げますと、氷見市さんはそのお住まいの方々が皆さん負担金というものをお出しいただいて、それで運行されてると。いうことであれば、負担金を乗る乗らないにかかわらず負担金を出していただければもう、おらがバス、自分のところのバスだと。いうふうな思いがやっぱりお住まいの方が出てくるかと思えます。

それであればこれを残していくためにはどうしたらいいんだろう。本数をふやす、お金を出してもいいから本数をふやすっていうふうにお考えになるのか、それとも、時間帯をこういうふうに変えてもらえれば乗るんだけどな。ここちょっと行ってもらえればそれに乗るんだけどなっていうふうには、自分のバスだ、自分たちのおらが地区のバスだっていうふうには考えれば、いろいろ皆さん考えていただけるというところもあるかと思えますので、決して私ども国の方でも、すべてを否定するわけではなく、こ

れだろうというのであればご相談いただければ、ちょっと無理だというところがあるにはあるんですけども、極力できることはお手伝いさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

一番の私の方で持った感想っていうのは、富山県の出していただいたウェルビーイングの中でもあった、目指すのであれば、今までの赤字補填の観点じゃないところを押さえていただきたいと、それはまさにその通りだと思います。

今までの私どもの、今もそうなんですけれども原則として地バスの補助、フィーダー補助っていうのは、赤字補填、赤が出た分を埋めますよということなんで、これっていうのは、行政的にはそうだと思うんですけども、一生懸命やったらそれだけのインセンティブがありますよっていうことも、考えてもいいんじゃないのかなと、それは私も個人的に思ってますし、今後そうしていくことによって、交通事業者さんも自治体さんもいろいろ考えていかれることになっていくんじゃないのかなと。サービスの質を上げつつ、赤字補填じゃなくて、ちょっとでもインセンティブが生まれる。そういうようなことが、一番いい方向性なんじゃないのかなというふうに思っております。

私、富山来ての感想なんですけど、富山県の皆様っていうのは本当に鉄道とバスっていうのを大事にされているというのが、感心させていただいております。一番大事なことは剥がさないことです。剥がしちゃうともう二度と戻せないっていうのが多々ありますんで、そこについては、ご協力、本当にご理解いただいておりますので、今後も引き続きご協力をいただければと思います。

### ●田中部会長

今お話もありましたけど、今の話でも構いませんし、その他、ご発言ある方ありましたらお願いします。

### ●南砺市

前から思っていたのですが、ノーマイカーデーという県の取り組みがありますけれど、もう少し踏み込んでいただいて、事業者の方も入れて鳥取県で取り組まれているような、富山県内で取り組んでいるマイバック運動のように県をあげて、もう少し強力な公共交通を利用するような運動ってできないものなのかなということを思います。

南砺市も城端線の利用促進とか、バスの利用促進に取り組んでいるのですがなかなか自分たちだけでは限界があると思っております。それを、県さんに音頭をとっていただいて、県、それから事業者さん、それから民間の企業の方もあげて、そういった取り組みをしていただければ大変ありがたいなと思うのですが、いかがでしょうか。

### ●事務局

今例示でノーマイカー運動の話出ましたけれども、昨年度のノーマイカー運動に関

しましては、例えば my route 推進協議会のご協力もいただきまして、マイルートでデジタル乗車券として発行して、なおかつ今までは、乗り継ぎの際に改めて現金をその都度支払っていただきましたけれども、乗り継ぎ時の料金も不要という形で、事業者さんにも、市町村さんにも、さらに一步踏み出してご協力をいただいてノーマイカー運動を実施いたしました。

こういった取り組みは、これで完璧だとは思っておりませんので、今のご意見も踏まえまして、さらなる推進ができるように、引き続き検討して参りたいと思っております。以上でございます。

## 4 閉会

### ●田中部会長

本日の部会のこの概要につきましては、事務局にて整理の上、他の3部会、終わっている3部会とあわせまして、第2回の全体会議、地域交通戦略会議において報告させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また県の地域交通戦略の策定にあたりましては今後もこの交通ワンチーム会議を通じまして、市町村、事業者の方、また運輸支局の皆様、国の関係の皆様などと、意見交換・情報共有を継続していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

本日の部会の議事については以上になりますので、事務局に進行をお返しします。